

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立美原西中学校
校長 小原 聡

中学校区におけるめざす子ども像 【強みを見つけてコツコツと、楽しく学び、自ら学ぶ子ども】 【学ぶことの楽しさを知り、自ら探求する子ども】

令和7年度 重点目標 □【強みを見つけてコツコツと、楽しく学び、自ら学ぶ西中生】自らを律し、自ら学び続ける子 【時を守り、場を清め、礼を正す】社会の基本的な行動を意識し、静謐な教育環境をつくる。
◇具体的な取り組みとして、以下を実施する：①教師は生徒の強みを発見し、それを育成するとともに、学びと活躍の機会を提供する。②学ぶことの楽しさを伝え、魅力的な授業を通じて生徒が学びに喜びを見出すよう努力する。③教師と生徒は、社会の模範となる行動を心掛け、学習しやすい環境を維持する。④「L-Project」を意識して実行することで学びの意欲を向上させ、最終的に学力向上を図る。このプロジェクトでは「教師が好き、教科が好き、学ぶことが好き、繋がりが好き」という要素を重視する。これら取り組みを踏まえ、『学力向上』と『静謐な学習環境整備』を推進し、更なる学校力向上と次元上昇を目指す。

<p>「確かな学び」の現状 今まで進めてきた研修の成果が徐々に実を結び、生徒の授業に対する肯定的な意見が増えてきている。また、ICT 機器の利活用の機会も充実し、よりスムーズに授業に取り入れられるようになった。一方で、各種統一テストの正答率が依然として十分とは言えない。授業への関心は高められつつあるが、確かな学力として定着していない部分がある。積極的に取り組みたい授業づくりと併せて、課題設定に工夫を凝らし、家庭学習の習慣も定着させる必要がある。ICT 機器が当然の学習手段として選択肢に入るような普通の指導を心掛け、生徒たちはいつ如何なるときにおいても自由に自分らしく学習できる環境作りを支援する。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 ・教育活動全体を通じて、多様性を認め合い、自らの人権を尊重されていることを実感できるような学校教育を推進してきた。公的な複数のテストで実施されたアンケートでは、「自己肯定感」や「他人を思いやる心」についての肯定的な回答が多く見られた。しかし、一方で「将来の夢や目標」に関する質問では、認識が低い結果が出た。これは、生徒たちが自己肯定感を持っているものの、それを具体的な目標や夢に結びつけることができていないことを示唆している。この点に基づき、さらに充実したキャリア教育の提供が必要であると考え、全国体力・運動能力・運動習慣調査で、全国平均を下回る結果となった。さらに、運動系部活動に参加している生徒の割合も全国平均を大幅に下回っている。この問題に対処するため、体育授業、食育、およびみんいく教育に新たな工夫を加え、生徒の心の充実と健やかな体の向上を目指す。</p>
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	【学習リズム】	学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子供の育成	●個別最適化された学びの場を提供し、生徒が学ぶスタイルを選択できるようにする。そのために、ICT 機器を自然と選択肢に入れられるように普段の教育活動において使用機会を多く取り入れていく。	「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか」の質問項目への肯定的な回答が70%を超える。	①学校アンケート ②授業の様子	② 3学期 ②通年	A 学年によって使用頻度に差はあるが、全体では 77%の生徒が週 1 回以上使用していると回答し、2年生では 82%が毎日使用していると回答している。	A 教員による ICT の活用も積極的に進んでおり、活用方法を教員間で情報交換する様子も見られる。今後もさらに研鑽を深め、生徒個々にあった教育を実践できるようにしていく。	A タブレットを使った授業がうまく行われています。生徒がタブレットを使いこなしている感じがします。授業でスキルが身につけているようです。家庭へ持ち帰って活用する機会が増えればいいと思います。これからもさらに ICT の活用が進むよう研修を積み重ねてください。
		子どもが自ら学びを進めたい授業・単元内の問いや課題設定の研究	●問いづくりや課題設定の研究に重きを置き、実践・共有・討議を重ねる。 ●研究授業の指導案を複数のメンバーで練り上げ、授業をひとつずつではなく、単元で捉える感覚を身につける。 ●職員会議ごとに実践共有の場を作り、教職員同士の対話をもとに授業改善を図る。 ★小学校での学び方を中学校の教員が理解し、目指す子ども像に向かっているかを見直す機会を持つ。	各統一アンケートの項目を参考に、子どもたちの記述を分析する。 授業参観及び研究授業において単元を見通した指導案を作り、共有する。 月に1度のペースで、他の教員の「単元の作り方・考え方」について触れる機会を持つ。 小・中連携の活動日において、研修後のアンケートを取り、記述を分析する。	各種アンケート 実践共有 実践共有 研修後アンケート	通年 通年 通年 通年	A A B B 学期に1回、全校で課題設定をテーマに研究授業を行い、研究討議を積み重ねている。 研究授業に向けて、研修部を中心に授業づくりに取り組んでいる。 月に1回のペースは実現できなかったが、学期に1回以上研究授業を実施し、相互に授業を検討する機会を作ることができている。 区合同研修で意見交流を行うとともに、区の校長会・教頭会で情報共有を行っている。	A A B B 研修主任を中心に、積極的に校内研修を実施し、子どもたちが学びたい授業づくりに取り組むことができた。今後も常に子どもたちが学びたい授業の実践に向けて学校全体で取り組んでいく。 小中連携においても、美原区として管理職だけでなく全体での交流をさらに推進していく。 A B	A A A B 教員の発問が子どもたちに考えさせる内容になっており、生徒同士で話し合う姿も見られた。研修主任を中心にしっかりと考えられた案が出されている。そのことが社会に出て役立つプレゼン力向上の取り組みにもなっている。 先生方がいつも子どもや保護者に寄り添い向き合ってくれて本当に良い学校だと思う。 ホームページを見て、西中のチームとして取り組んでいると感じた。授業時間の確保が大変だと思いますが、教員間の情報交換、生徒が交流する工夫を期待しています。 美原区の学校全体で子どもたちの学びの交流することは素晴らしいことだと思います。
		■「優しさと厳しさ」の中での信頼関係づくり。(優厳実行)	●「優厳実行」を意識し、「かかわり貯金」の中で生徒の「強み」を見つけ、活躍の場をプロデュースする。	「良いところがある」「得意なこと」をしている「学校が楽しい」と肯定的に回答する割合が75%を超える。	IRT 調査等	3学期	A 76%の生徒が自分に良いところがあると回答し、90%を超える生徒が学校生活を楽しいと回答している。	A 授業以外でも常に教員が子どもたちに関わり続け、良好な関係を築けている。今後も関わり貯金を継続していく。	A 教員が子どもたちへの声掛けをよくしてくれています。通学途上の生徒の様子を見てると、落ち着いて挨拶を返してくれる生徒が多い。体育大会での集団行動とてもまとまりがあると感じます。子どもたちが自分への評価を高くつけることができていることはすごい。そのような子どもたちの育成に学校全体で取り組んでくれていると思います。
		■人権尊重の精神を育てる。	●すべての行動、言動において人権意識・道徳意識をもって取り組む。	「友達を傷つけないようにする」「道徳の授業は大切だとおもう」と肯定的に回答する割合が75%を超える。	学校教育自己診断 IRT 調査等	3学期	A 85%を超える生徒が、相手の気持ちを考え優しい言葉遣いを行うと回答している。	A 道徳の授業以外にも、いじめの授業やネットいじめ防止教室など様々な取り組みを継続し、子どもたちの人権意識の高揚に努める。	A 誤解から生じるトラブルにも先生方が目を配り、いじめに発展することのないようにしてくれています。教員の時間外滞在時間の減少は高く評価します。しかし、部活動が友達同士や先生との良い思い出になっていると思うので継続が重要です。
豊かな心・健やかな体	【生活リズム】	■えがおあふれる学びの場づくり	●★いじめアンケート結果をその都度いじめ防止対策委員会と共有し、防止と対策をする。	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」の問いに肯定的な回答が100%になる。	全国学力・学習調査等	3学期	A 「誰に対しても親切にするようにしている・私はその人の気持ちをよく考える」の回答が70%を超えている。	A 生徒間でのトラブルは発生しているが、常に迅速に対応することで早期の解決を図ることができている。	A 様々な生活環境の生徒が通学しているので、学習習慣の定着は大変だと思いますが、クラスづくりや保護者との連絡を大切に頑張ってください。ほとんどの生徒がルールを守ることができています。自己分析はできていると思うが、挑戦力かもう少しあってもいいのではないかと、自分の上限や可能性に制限をかけることなく成長してもらいたい。いつ学校に行っても廊下や教室は整然と片づけられており、静かでよい状態が保たれています。
		■学びに向かう意欲と計画性を兼ね備えた生徒の育成	・現状を知ること、向かうべき場所(なりたい姿)を想像させる。 ●★自身の現状を正しく知り、次の課題を設定できる。	・「総合的な学習で自分の興味・関心から学習内容を自分でできているか」と肯定的な回答が70%を超える。 ・「以前の自分よりも「学習」に前向きに取り組んでいるか」における肯定的な回答が70%を超える。	学校独自のアンケート IRT 調査等 見取り	3学期 3学期 通年	B 「授業で学んだ内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思った」との回答が堺市平均を超え、57%あった。平日の家庭での時間の使い方について、家庭学習をしていない生徒が半数以上となっていた。	A 学びに対する意欲は堺市平均を超えているが、家庭学習については大きく下回っている。学びたい授業の実践とあわせ、キャリア教育の充実させることで、学ぶ意義を認識させて、自ら学ぶ生徒の育成に力を入れていく。	
		■時を守り、場を清め、礼を正す	●★授業前着席の習慣化 ・そうじ・整理整頓ができている静謐な環境作り。 ・返事・挨拶・感謝の気持ちの発声の促進。	「時間を守りバリエーションができて」「そうじをしっかりとして」「基本的なマナーが身につけている」と肯定的な回答が75%を超える。	IRT 調査等 見取り	3学期 通年	A 95%に上る生徒が学校の決まりやルールを守っていると回答している。	A 静謐な教育環境を維持することができている。今後も子どもたちとの良好な関係作りと指導の継続を行う。	
地域協働	【信頼リズム】	■見える学校から見える学校へ	・教育活動などの学校情報を通信やHP・Tetoru 等で情報提供を行う。→「見せる」 ・PTAの役員・委員・西中応援会と連携しながら各行事・地域活動を行う。	・「学校から届く情報は、学校の様子を知らせるのに役に立っている」と肯定的に回答する割合が75%を超える。	学校教育自己診断	3学期	A 学校からの情報発信は基本 Tetoru を用いて行い、学校ホームページの更新もほぼ毎日行っている。地域教育協議会の新しい催しを企画した。	A 積極的に情報発信を行うことや、PTA をはじめ西中応援会・地域教育協議会などと連携を行うことで、保護者・地域との良好な関係を築くことができています。	A 学校の様子がよくわかり、ホームページを見るのが楽しみです。ホームページやTetoruなどで、場所や時間を問わず情報を得ることができる。コロナで途絶えた地域とのつながりも少しずつ回復しています。今後もより一層地域との良いつながりが広がることを期待します。

校長より(年度末)

【学習のリズム】

- ・生徒が自ら学び探究的に取り組めるよう、堺市の目指す学びのコンパスの考えに基づく授業の工夫・改善し、子どもたちが学びを進めたいくなる授業づくりに取り組んできたところです。
- ・生徒へのアンケートにおいて、授業の満足度に対する肯定的回答は94.9%、特にICTを活用した授業に対する授業の魅力度の肯定的回答は96.5%となっており、生徒からは一定の評価を受けている。
- ・一方、教員へのアンケートにおいて授業改善や研修体制に対して肯定的回答が高いものの、学習到達度の低い生徒への対応や個別最適な学びに対しての課題が残り、学力テストの正答率の向上にはさらなる工夫が必要と考えます。
- ・今後も、効果的な授業実践と学習習慣の定着を図り、確かな学力の向上に努めます。

【心のリズム】

- ・生徒には日々のかかわりと教育活動の中で、道徳観や人権尊重の意識を育み、いじめの未然防止や早期発見に努めてきました。
- ・生徒へのアンケートにおいて、「いじめや暴力など困っていることがあれば先生がすぐに対応してくれるか」という設問には96.9%の肯定的な回答、また友人と仲良くできているかという質問に対して堺市平均を上回る肯定的回答を得ており、学校と生徒および生徒同士ともに良好な信頼関係が構築できています。
- ・学校を休みがちな生徒へも個々に寄り添い、生徒に見合ったアプローチを行ってきました。本校独自取り組みである「西中ルーム」の開設により、登校に不安をかかえる生徒が学校へ行くきっかけの一つとなっています。
- ・心身の急激に変化を遂げる多感な生徒たちにおいては、いじめや暴力はいつ発生しても不思議ではなく、今後も油断することなく生徒が安全で安心して学び成長できる環境を整えるため、より一層取り組みを進めていきます。

【生活のリズム】

- ・生徒には、授業前着席や清掃・あいさつなどの基本的な学校生活習慣は着実に定着しており、多くの生徒が率先して取り組む姿勢が見られました。
- ・一方、学力の定着と家庭学習の習慣化には依然として課題が残ります。
- ・学習の意義や将来の目標を明確化するために、キャリア教育などの社会で生き抜く力を醸成する必要があると感じます。
- ・今後は生徒が規律ある生活をベースに人生の目標や夢の実現のために、主体的に学びたいくなるよう指導と支援を行っていきます。

【信頼のリズム】

- ・地域教育協議会、PTAおよび西中応援会のみなさんと連携し、地域行事に学校として積極的に参画して、地域との信頼関係の構築に努めてきました。
- ・西中応援会のご協力により、生徒のがんばりを応援していたでける「ライセンスチャレンジ制度」を活用し、多くの生徒が資格取得などにチャレンジしてくれました。
- ・今後も「地域を愛し、地域に愛される西中生」の育成に努めていきます。

先生からの積極的な声掛けなど、先生と子どもたちの関係作りがうまくできていると感じます。子どもたちが学校を楽しく感じ、自己評価を高くつけることができることは素晴らしいことです。

子どもたちがルールを守り、静謐な教育環境を維持できていることは高く評価できます。これからも、挨拶などの習慣や、清掃活動など良好な人間関係作りや生活環境づくりに取り組んでもらいたいと思います。

中学校のカリキュラムでは、より専門性の高い学習内容となっているため、体験的な学習活動を取り入れ、学んだことを生かせる教育に取り組まれると、より子どもたちの主体的で総合的な学びにつながると思います。

地域としても、西中応援会のライセンスチャレンジなどによって、子どもたちの成長に協力させていただきますので、地域とのより良い関係の維持発展をよろしくお祈りします。